

森から、甲子園へ。

—— 0からの出発、下剋上の物語 ——

北海道森高等学校学生寮運営支援事業

北海道森町 企業版ふるさと納税 活用のご提案

火が消えたグラウンド

北海道森町は北海道の南にある13,000人の海と山の大自然に恵まれた漁業と農業の町。函館市から車で50分、函館空港、新函館北斗駅という交通拠点も近くにある風光明媚で食の豊かな町です。

町内には森高校という道立高校が1校ありますが、人口減少の荒波には抗えず、生徒数が減少し学校存続の危機に。野球部も2017年には廃部状態となりました。

グラウンドに響く声はなく、町のシンボルとしての火が、今にも消えかけていたのです。



元プロの監督就任と、4人の「仲間」



地元出身・元プロ野球選手の覚悟

2024年、地域おこし協力隊として森町に着任した吉田さん。地元森町から甲子園を目指し、部員「0」の森高校へ猛アタック。野球部を復活させプロの技術だけでなく、逆境を覆す精神力を伝承します。



町外から集まった4人

2025年4月、監督の情熱に応え、「監督の指導を受け甲子園を目指したい」4人の1年生が町外から入学。「0から歴史を作る」挑戦を始めました。



泥にまみれた「夢の拠点」

監督と生徒の共同生活

しかし、町には生徒を受け入れる住居が無い。
そこで空き家を再生した寮で、監督と生徒4人が寝食を共にする。夜遅くまでのミーティング、共に囲む食卓。

ここは単なる学生寮ではなく、人間力を磨き、勝利への執念を共有する「道場」です。この濃密な時間が、奇跡の土壌となりました。



屈辱の春、這い上がる力

2025年春、連合チームでの初めての公式戦。結果は0-19。手も足も出ない、点差を詰める術もない。現実是非情でした。

この日の悔しさを忘れない。

「チームとして強くなる」自分自身の甘さを取り除き、磨いていく。これまでを振り返り、また、先に進んで行く。しかし、この屈辱が彼らの導火線に火をつけたのです。



2025年：4人での惨敗からの軌跡

時期	結果	成長の証 / 特記事項
2025 春季大会	初戦敗退 (コールド)	八雲高校連合チーム で初の公式戦 0-19 (5回コールド) 4名での初陣。圧倒的な実力差。野球にならない屈辱。
2025 夏季大会	初戦敗退 (コールド)	八雲高校連合チーム 0-10(5回コールド) 届かぬ壁。しかし寮での猛練習が続き、意識が劇的に変化。
2025 秋季大会	函館地区 準優勝	七飯高校との連合チームながら甲子園経験校を撃破！ 2勝し地区決勝へ！ 町全体が熱狂する快進撃。

わずか半年で「惨敗」を「歓喜」へ。4人の想いは、少しずつだが着実に進んでいる。今や全道を震わせる大きなうねりとなっています。

秋、もう一度、野球がしたい

2025年夏、中学生向け野球部体験会を実施。なんと23人の生徒が全道からやってきた。吉田監督と野球がしたいそんな仲間が増える兆しが見えてきた。

2025年冬、ケガで一度はあきらめかけた野球。それでももう一度野球がしたくて、吉田監督のもとへ2人の転校生がやってきた。これで6人。次の春には森高校野球部が単独チームとなる現実味を増してきた。



2026年、待望の単独チーム復活へ



単独チーム再始動

2026年春、9名の新入生も加わり、ついに15名に。連合を卒業し「森高校」として甲子園への挑戦が始まります。



第2寮の開設へ

部員増加により第1寮は満室。空き家を活用し、第2寮もこの春増加。今後新たな挑戦者の受け皿を拡大します。



町の活性化へ

野球部の復活が人口流入と若者の定着を生み、町全体のエネルギーとなります。
森高校では新たな部活動も復活しています。

2026年、単独チーム再始動

2026年春季大会、対戦相手は昨秋の函館支部代表。

4人で始めたチームは新たな歴史を刻む。

昨年から投手を始めたエースが王者相手にノーエラーの厚い守りに支えられながらも8回4失点とゲームを作る。

結果は0-6の敗戦。だけど満足しない。まだまだやれる。もっとできる。

「自分たちのチーム」をつくり夢の舞台・甲子園を目指す。



森高等学校学生寮運営事業へのご支援

○事業の目的と内容

町内事業者が運営する学生寮の運営経費の一部を支援し、町外生徒を受入れることで森高校の適正規模の維持と活性化を図る。

○解決される地域課題

- ・人口減少対策
- ・関係人口の創出
- ・町の賑わい増
- ・スポーツによる地域活性化
- ・地域の魅力化
- ・地元高校存続による教育環境の向上
- ・夢の実現

支援項目	具体的な内容	企業様のメリット
寮の維持・運営	入寮者を支える食費・管理費	社会的信用の向上
空き家リノベーション	第2・第3の寮の整備（受け皿拡大）	SDGsへの貢献実績
人材育成支援	元プロによる英才教育環境の維持	メディア露出によるPR

共に「甲子園」という夢の舞台に。

あの日、0から始まった挑戦は、今や町の希望です。

2026年、単独チームとして踏み出す第一歩を、
貴社と共に歩みたい。ご支援をお待ちしております。

北海道森町 企画振興課

Tel: 01374-7-1283 | Mail: kikaku@town.hokkaido-mori.lg.jp

<https://www.town.hokkaido-mori.lg.jp>